

多文化関係学会 2013 年度 年次大会

【開催日】 10 月 19 日（土）および 20 日（日）

【会場】 立教大学新座キャンパス(埼玉県新座市)

大会委員長挨拶

第 12 回 年次大会へのいざない

舩谷 鋭（立教大学）

第 12 回年次大会は、10 月 19 日（土）・20 日（日）の両日、立教大学新座キャンパス（埼玉県新座市）で開催されます。大会前日の 18 日（金）には、「多文化関係の土台としての地域社会」と題し、講演とボランティアガイドを体験していただくプレカンファレンスを、キャンパスおよび周辺の古刹平林寺で行います。

今回の大会テーマは「多文化関係をかたちづくるもの」として、これまで何度か取り上げられてきた多民族を軸とした多文化共生に加え、地域社会での、政治的関係における、しょうがい者を含む共生を考えてみたいと思います。プレカンファレンスの地域社会に続き、初日のシンポジウムは「多文化関係としてのポストコロニアル」と題して、共生の障碍となりがちな政治的関係を考えます。懇親会に先立ち、視覚しょうがい児童へのダンス指導を行っている学生サークルから、話題提供とパフォーマンスを披露してもらいます。二日目のオープンフォーラムは、今回の新機軸として、公募パネルによる開催とします。応募者以外のパネラーは非会員も可としましたので、自由な発題で、多文化関係学とは何か、あるいは「多文化関係学会」はどう進んで行くべきかを存分に議論していただければと思います。

立教大学は陸前高田市との包括連携協定を結び、学生ボランティアに留まらない多方面での被災地支援を行っています。現地の人々にとって毎年巡ってくる 311 という日は、思いを新たにするとともに、被災地以外の人々が急速に被災地を忘れていくことを実感する日でもあるそうです。阪神淡路の復興十年の到達点は、東日本にとって三倍以上かかるであろうと現地の声に伝えます。この学会が被災地との恒久的な関係をどのように結んでいくか、今回の「多文化関係をかたちづくるもの」の一つとしての地域社会を手掛かりとして、考えていければという思いもあります。

武蔵野の地に位置する新座キャンパスは、本学のもう一方の池袋キャンパスに比べると確かに利便性は落ちますが、池袋から急行 20 分という意外なアクセスの良さもごさいます。今回は日本最初の観光学部を有するキャンパスという地縁を活かし、東武トラベル法人東京支店（専用デスク：03-5807-7311）が参加者の皆様の宿泊、交通をサポートいたします。いつもの東京近郊開催とは違う、ホスピタリティに満ちた場を提供したいと思いますので、忌憚のないご意見を賜ればと切に願います。それでは、新座の地でお会いすることを楽しみにしております。